

## 住む場所を選ぶ

三笠市では、本年7月から、2600万円の予算をかけて保育所の保育料と幼稚園の授業料を実質無償化することです。

三笠市における保育料は、年間22万3千円、また、幼稚園の授業料は年間10万3千円ということですから、実質無償化の家計への効果は大きいと思います。

今後、三笠市では、保育料や授業料に相当する金額分の三笠市内で使用可能な商品券を交付するというのですが、保育料等の実質無償化は、道内では初めてのことです。

三笠市では、これによって市内での消費も増え、経済の活性化に繋がると期待しているようですが、市が一番期待していることは、子育て世代の若い方々が、新たに市内に移住してくれることだろうと思います。

現在、各自治体では、他地域からの移住促進を重要な政策の一つに掲げて取り組んでいますが、人口が1万人余りと、ピーク時の6分の1にまで減少している三笠市としても、今回の保育料等実質無償化の効果を大いに期待しているに違いありません。

一般に、人々が住む場所を選ぶ場合は、こういった点を判断の基準にしているのでしょうか。

それについては、幾つかのキーワード、例えば、「仕事」「学校」「医療」「環境」「利便性」「コミュニティ」といったことが考えられますが、保育料などの実質無償化は判断材料として魅力的だと思います。

こうした判断材料のどれを優先して考えるかは人それぞれですが、そのどれも無視して良いというものはないはずです。例えば、子育て世代であれば、周りの自然環境がどうか、いじめのない学校なのか、学力の高い学校なのか、医療機関はどうなっているか、小児科はあるか、コミュニティはしっかりしてい

るかといったことが、判断材料になるでしょう。

こうした中で、保育料などが実質無償であるというのは重要な要素ではありませんが、これだけで移住先を決めるということにはならないように思います。

親が保育所を選ぶ場合、無償であれば何処でも良いと考える親は少ないでしょう。子どもにとってどういう環境を提供できるかということ抜きには、選択の議論は出来ないからです。例えば、保育所について考えると、保育所の施設や取り巻く環境、保育の内容といった保育所自体の情報はもとより、今後入学していく小・中学校の環境や教育内容、更には地域のコミュニティや医療機関の状況などの情報が判断する上では必要になってきます。

完璧に、何でもそろっている地域などというものはこの世に存在しないのですから、各自治体としては、如何に多様で魅力的な組み合わせを提供できるか、そこが問われることになります。

選ばれるための知恵を出す、まさに大いなる競争が始まっています。

(塾頭 吉田 洋一)